

オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis

【選定理由】

全国的にも個体数の少ない大型のコガネムシで、生息には、内部にウロをもつミズナラなどの大木が存在する自然度の高い森林が欠かせない。県内では、そのような自然林は限られてきており、さらにその環境の悪化による個体数の減少が懸念されている。

【形態】

体長 26.3～36.1mm。にぶい光沢のある黒褐色で、青銅ないし紫銅色の光沢を帯びることもある。前胸背には中央に一对の縦隆条があり、オスでは明瞭に発達する。上翅背面は平坦。独特の強いジャコウ臭がある。

【分布の概要】

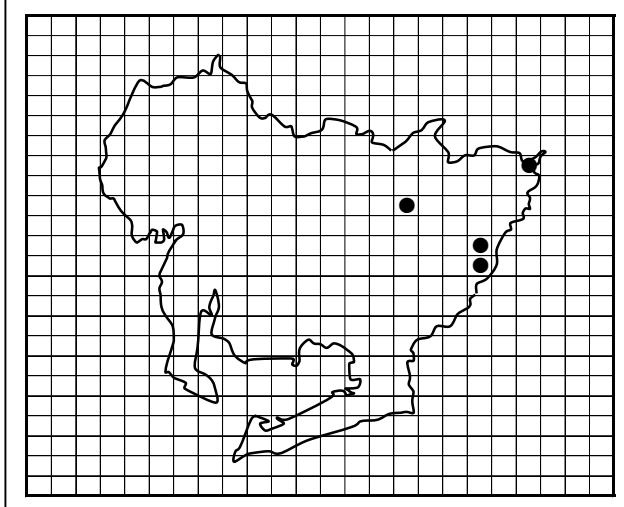
【県内の分布】

豊根村、設楽町、新城市から記録がある。

【国内の分布】

本州、四国、九州、屋久島。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

ブナ林を中心とした自然度の高い森林に生息する。幼虫は、ミズナラ、カエデ類、スギ等の大木にできた樹洞内に貯まったフレーク状の腐植土中に生息する。成虫は7月～8月に出現する。日中樹冠部を飛ぶが、樹洞内に潜んでいることの方が多い。また、樹洞入り口で放屁姿勢をとっている行動が観察される。恐らく独特のジャコウ臭を放っているものと思われる。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内でこれまでに確認された個体はのべ10個体にも満たず、個体密度はかなり低いものと推測される。本種の発生木となる必要条件を満たす樹木は、森林中に数が限られており、また更新には長い年月が必要となると考えられる。さらにそのような発生木となる条件が揃う確立も低いものと考えられる。そのため本種は、同一の発生木を長い年月にわたって利用することが考えられ、一本の発生木の消失は、本種の生息に大きなダメージを与える可能性がある。

【保全上の留意点】

現在の生息地である森林の保全、並びに発生木となる可能性のある大径木の保護が望まれる。

【関連文献】

- 松野更一・伴憲隆・穂積敏文, 1990. 愛知県のコガネムシ科. 愛知県の昆虫, (上): 339-361. 愛知県.
酒井 香・藤岡昌介, 2007. 日本産コガネムシ上科図説 第2巻 食葉群 1: 145. 昆虫文献六本脚.
藤岡昌介, 2001. 日本産コガネムシ上科総目録: 126. コガネムシ研究会.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)